

－次第－

○開会行事

○研修・講演

「コロナ禍の今、必要な理解と支援」

京都視覚障害者支援センター理事 松永 信也 様

○取組報告

○閉会行事



会場 木津川市山城総合文化センター（アスピアやましろ） 外観

令和4年10月25日(火)、3年ぶりに参集の形で「山城地方視覚障害者社会教育指導者研修会」を開催しました。山城地方の視覚障害者団体のリーダー及びボランティア関係団体のリーダー、市町（広域連合）教育委員会の社会教育関係者、各市町村福祉関係者という幅広い立場の方々（約70名）に御参加いただき、それぞれの立場から自分にできることは何かを考えるよい機会とすることができました。

－研修会の内容は以下のとおりです。－

### 開会行事

開会に先立ち、山城教育局久保局次長から、社会全体が、**自分事として捉えること**の大切さを認識し、**誰一人取り残さない**ために、この研修会で共に学びを深めていきましょうと挨拶を行いました。



久保局次長挨拶の様子

### 取組報告

それぞれ、多様な取組をされており、各地域が前を向き**歩みを進めておられる**ことが伝わる取組報告となりました。



代表者による報告の様子

### 研修・講演

目が見えなくなってからの京都ライトハウスでの訓練や現在の活動に至るまでの思い、体験、活動等を具体的に話していただきました。

参加者は、松永様が、目が見えなくなった人ができることは何かを探る中、社会の成熟度に課題があることに気づくことで現在の様々な活動につながったことや、「**視覚障害者などの障害者をどう理解してもらうのか、自分たち当事者の課題である。**」という考えに至ったことに、自分の生き方を重ねながら話に聞き入っていました。

参加者からは、「**松永さんの話を聞いて、同じ思いをされていたのだと頷きながら聞きました。**」、「**周りの方に知ってもらおう大切さを感じています。**」などの意見があり、会場全体で学びが共有されました。

**心のこもった御講演ありがとうございました。**



松永信也様による講演の様子



研修会全体の様子



全体の感想を述べていただいている様子

### 閉会行事



藤井総括社会教育主事が、松永様や取組交流の話をもとにしながら、「**自分事としてきちんと理解していくことが大切**」という言葉で会を研修会を閉じました。